

海祭礼讃 - 漁業と祭りを中心とするまちの建築 -

これは海とまち、神と人を結ぶ漁港であり祭りの舞台である。日常を祭りにし、祭りを日常にした漁業と祭りを中心とするまちの建築の提案。
私の地元の千葉県勝浦市。失われつつある漁師町の漁港風景と人の温かみ、威勢のいい祭り唄をこれから衰退するまちの未来に残す。

01. はじめに 漁業と祭り

□地域の公共空間としての神聖な漁港空間

古くより多くの沿岸部は漁業という共同作業の生業により町が発展してきた。さらに漁師たちは海上事故や不漁は天災と信じ神に祈りを捧げ始め祭りの文化が生まれた。かつての漁港空間は漁師たちの生産空間のみならず**地域の人々の居場所**であり、海の神を向かい入れる**祭りの舞台**となっていた。

つまり漁港空間とは**共同生活空間すなわち地域の公共施設**としてまちに寄り添ってきた。



□衰退する地方都市の海祭伝統

時代の発達とともに漁港の市場規模拡大、機械の導入など地域の居場所となっていた**漁港は流通の拠点のみの意味**しか無くなってしまった。そこにはかつての漁師や地元の人々の関係や祭りを通して繋がっていた神との関係は無くなってしまった。さらに漁業従業者の減少、希薄な隣人関係、伝統的な祭り文化の伝承など、かつての漁業大國日本はさらなる危機に面している。



□漁業（ケの日）と祭り（ハレの日）の類似風景

日常の**漁業風景には祭りのような風景が存在し、ハレの日の祭りには漁業のような風景が存在する**。これらの風景は私たちの生活には機械化などの波に埋もれてしまい見えないが確かに繋がりは残っている。

つまり漁師町に暮らす私たちの日常はハレの日に繋がりが、地域の人々が楽しみにしているハレの日は日常に存在している。



02. 敷地 漁業と祭りを中心にかつて栄えたまち 勝浦

□敷地：千葉県勝浦市勝浦漁港

千葉県房総半島に位置する勝浦市は古くから漁業と祭り、400年以上続く朝市によってまちが栄えてきた。しかし地方都市ゆえに漁業は衰退の意一途を辿っており、危機に面している。本設計の敷地である勝浦漁港は日本有数、関東一のカツオの水揚げ量を誇り、小さなまちながらも県下2位の第3種漁港として全国に流通している。開港日には漁業従業者や観光客、休港日には釣りを楽しむ人が訪れ賑わうものの、漁港内は機械のための大きすぎる空間や、柱による均質的な空間、漁師の後継者不足、そこに古くからの漁港風景はなく漁師町として栄えたまちの伝統は失われつつある。



□勝浦大漁祭り

勝浦に300年続く祭りの一つである勝浦大漁祭りは長い間それぞれの地区で個々にお祭りが行われており、各地区の大漁、海上安全を祈願し行われてきた。市の統制により各地区が一斉に祭りをを行うようになってから祭りは祭礼化し、現在では祭りの担い手である若者の減少により屋台を機械で引っ張ったり、御輿の出庫を控えるなど、祭りは形式化し、衰退の一途を辿っている。



03. 提案 漁業と祭りを中心とするまちへの提案

□コンセプトダイアグラム

遠見岬神社とその沖の鳥居を結ぶように建築により参道を作り出し、漁業者や地域の人々の日常に神との繋がりを持たせる。海とまち、人と神をつなぐ新たな都市骨格となる漁業と祭りを中心とする建築を提案する。

・漁師町勝浦の変遷と未来



漁業という共同作業の生業により海と神と人の関係強く、地域のコミュニティは存在していた

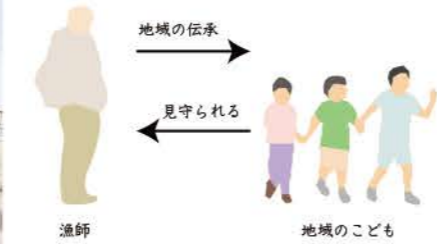
時代の変化とともに大きな漁港空間の登場。かつて繋がっていた海とまち、そして神との繋がりは断絶されてしまった。

機能性を支える大きな空間を持ちながらも人のための細やかな居場所を作り、**海とまち、そして神との繋がりを持つような建築**として新たな漁港空間のあり方を提案する。

03. 提案 漁業と祭りを中心とするまちへの提案

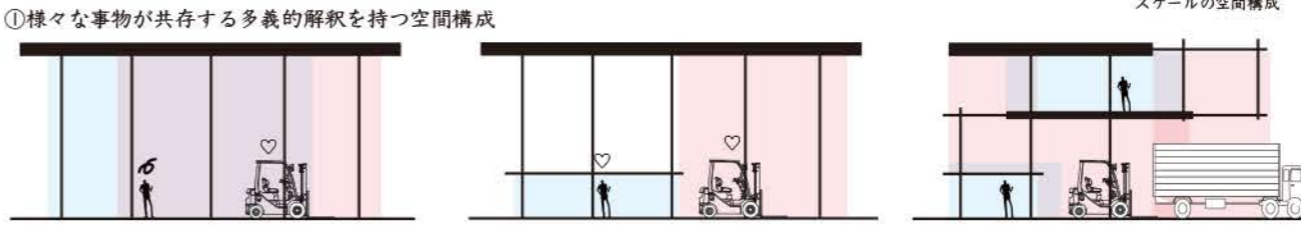
□漁業と祭りを中心とするまちの連関図

今までまちと隔離されていた漁港空間や閉鎖的であった加工場等、**漁業という生業共有のものとしてまちを開くこと**で地域の人や観光客が漁業就業者と関わりかけを作る。例えば漁師が漁師小屋で作業をしていて、学校帰りの子供達を見守り、子供達は日常的に漁の準備の作業風景を見て学んだり、市場と地域の食堂による食育教育など新たな関係性が生まれる。また漁港の集約計画とともに祭りによる他地域との連携によりまち全体が関係性をもつ。

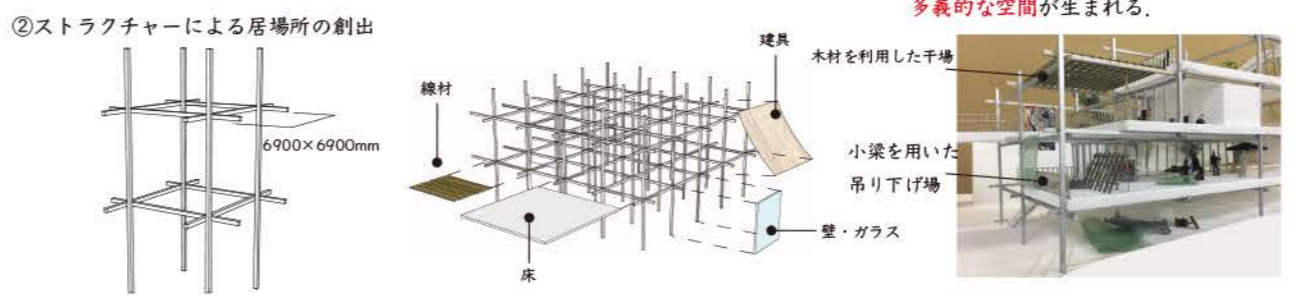


□空間構成

多くの漁港では柱梁構造と大きな屋根によって空間が構成されている。しかし漁港には様々なスケールのものが存在しているが、多くの漁港ではどれも一律なスケールの扱いをしている。様々な事物に適切なスケールを与えることが心地の良い空間にならないか。

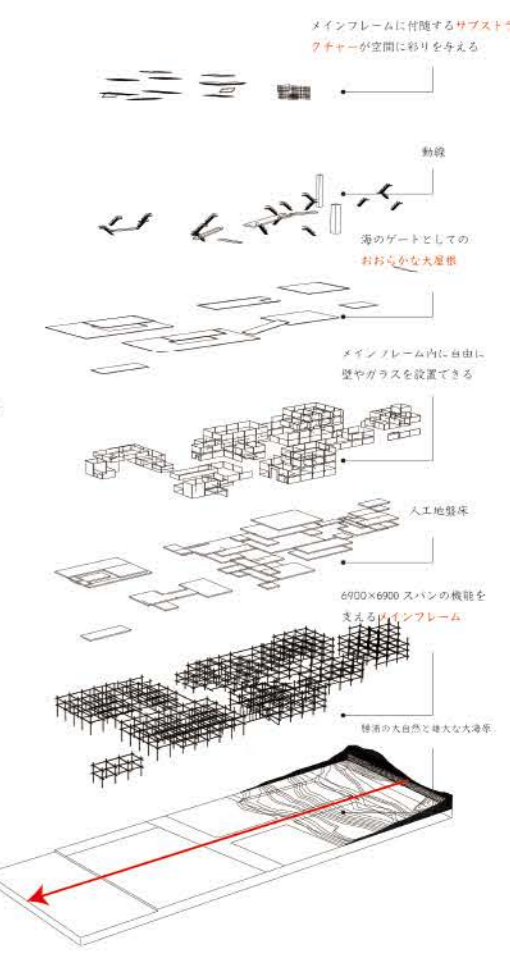


①様々な事物が共存する多義的解釈を持つ空間構成
人や機械が一義的な空間に存在している既存の漁港。効率性を重視した機械のための空間。
人には人の、機械には機械のスケールを与えることで**適切な空間を作る**。

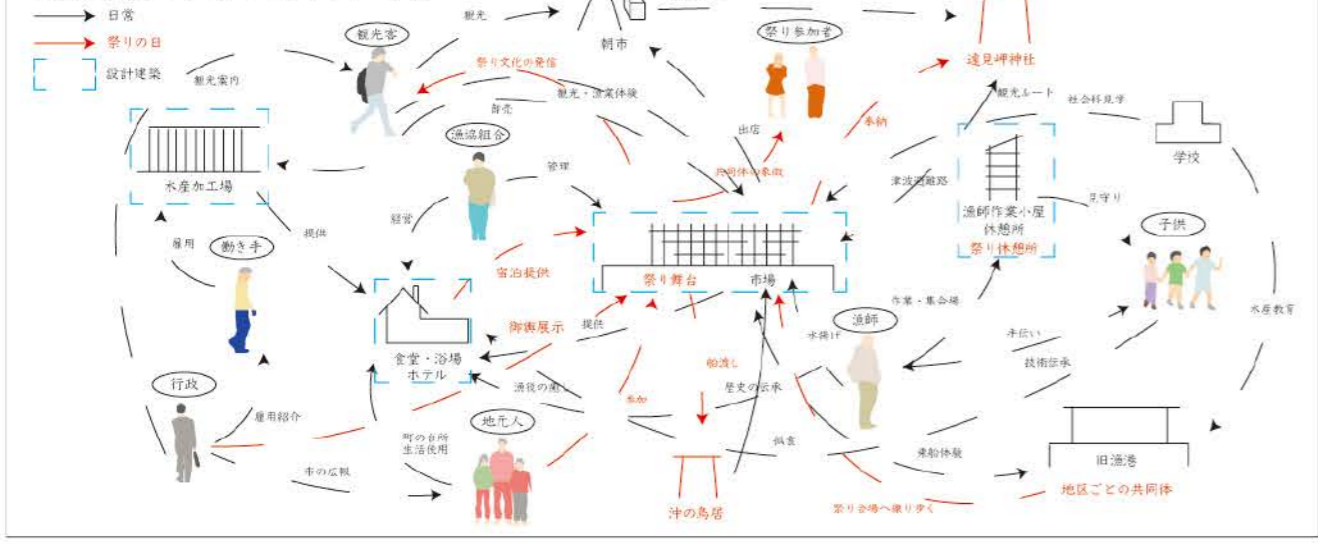


②ストラクチャーによる居場所の創出
6900×6900mmのスパンのメインフレームにより機能性を持った構造と建築の一連のリズムを作る。
柱スパン内の壁や床を挿入することにより空間を作る。**メインフレームを利用したサブストラクチャー**を設けることで利用者がうまく架構を使い、漁師町ならではの**様々な風景**を作り出す。さらに建築的余白を作ることにより変化していく時代に対応しながら更新されていく。

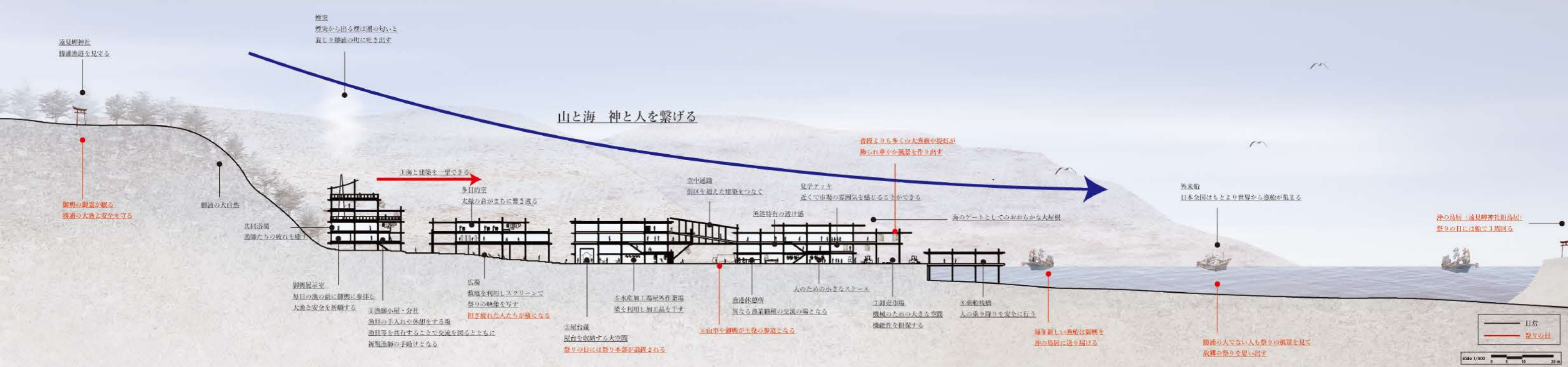
□建築全体構成



□漁業と祭りを中心とするネットワーク図



04. 断面図 海とまち、人と神をつなぐ漁業と祭りを中心とするまちの建築



05. シーン ハレとケの風景

